

名取市における「被災者見守り活動」の実態に関する一次的分析

A Primary Analysis of “Watching and Recovery Supporting” Disaster Victims in Natori City, Miyagi Prefecture

○佐藤 翔輔¹, 立木 茂雄², 重川 希志依³, 田中 聡³
Shosuke SATO¹, Shigeo TATSUKI², Kishie SHIGEKAWA³ and Satoshi TANAKA³

¹ 東北大学 災害科学国際研究所

International Research Institute of Disaster Science, Tohoku University

² 同志社大学 社会学部

Faculty of Social Studies, Doshisha University

³ 常葉大学 社会環境学部

Department Social Environment, Tokoha University

In order to understand “Watching and Recovery Supporting” disaster victim project in Natori city government, we have conducted participant observation and analysis of visiting and hearing log data which is caught up by visitor. The participant observation of visiting activity and case conference has continued for about 10 hour just about once two weeks since April, 2014. Visiting log data is digitized since June, 2012. This database’s fields consist of log ID code, input date, house code, household code, personal code, intended person’s name, birthdate, age, sex, visiting date, visiting address, inhabitation pattern (private rental house as temporary housing or rebuilding house), hearing category (health, livelihood, housing environment, economic situation, absence, other), hearing content, etc.

Keywords : *life recovery, disaster victim support, private sector rental housing as temporary housing, the 2011 Great East Japan Earthquake disaster, Natori city*

1. はじめに

東日本大震災の被災自治体である名取市では、健康や生活さまざまな不安を取り除き、孤立、引きこもりを防止し、被災者の生活再建支援を図ることを目的として、民賃借り上げ仮設住宅居住世帯、自宅再建済世帯（民賃借り上げ仮設¹⁾・プレファブ仮設住宅退去世帯）、福島からの避難世帯を対象にした「被災者見守り活動」事業を実施している。本研究では、同事業の参与観察、関係者へのインタビュー調査、訪問ログの分析を行い、その一次的な実態把握を試みている。本報では、2014年9月時点での同事業の観察・分析の経過について述べる。

2. 方法

本研究では、名取市「被災者見守り活動」の実態を把握するために、同事業の参与観察と訪問支援員による訪問・聞き取り記録データの分析を行っている。参与観察は、2014年4月以降、およそ2週間に1~2回、1回当たり5時間程度、訪問支援員による訪問活動のほか、定期的開催される関係者ミーティングを対象に行っている。訪問支援員による訪問・聞き取り記録データは、2012年6月以降に電子化され、データベースシステムで管理されている。同データベースは、記録ID（レコード単位）、入力日、住宅コード、世帯コード、個人コード、対象者氏名、居住形態（民賃借り上げ仮設住宅、再建済）、生年月日、ヒアリングカテゴリー（健康、生活、住まい、環境、経済状況、不在、その他）、聞き取り内容（自然文）等がある。

3. 「被災者見守り活動」の流れ

本章では、参与観察をもとに名取市「被災者見守り活動」の流れについて述べる。名取市の「被災者見守り活動」の実施主体は、名取市サポートセンター「どっとなとり」がおこなっている（以下サポートセンター）。サポートセンターは、名取市直営の組織であり、その管理は同市震災復興部生活再建支援課が行っている。

訪問活動は、週4日間（月・火・木・金）、次のような流れで行われている。1) 訪問準備、2) 訪問・聞き取り、3) 訪問実績と聞き取り内容の入力（帰所後）。1) 訪問準備では、訪問対象世帯に関する情報シート（総括票）、2) 世帯構成員ごとの詳細情報と、過去に訪問した実績がある場合には訪問履歴（日付と聞き取り内容）は表示される情報シート（個別票）、聞き取り内容を記録するシート（対応時内容チェックシート）を、世帯単位で準備する。同シートは、家族、交流、住宅、経済、健康、その他の枠からなる自由記述様式である。2) 訪問支援員は、サポートセンター支援員、名取市生活再建支援課職員、みやぎ心のケアセンター職員のうち、サポートセンター職員を少なくとも1名を含む2人組となり、自動車を使って訪問する。1日に、1~2チームが9:00~12:00、10:45~14:45（途中、昼食休憩を含む）のいずれかの時間帯で出動している。3) 訪問支援員は、世帯構成員の状況、周辺住民との交流、住まいの状況、経済状況、仕事の状況、健康状態（通院、常備薬）について聞き取りを行う。聞き取りの後は、サポートセンターのしおり、就労や健康相談、防犯・予防に関する注意喚起のチラシ

等を渡す。訪問支援員は、1日に最大で10件程度の訪問を予定し、聞き取りのための準備を行うが、訪問時不在の場合が多く、すべて訪問できることは稀であり、1日に2～5件程度、日によってはすべて不在の場合もある。不在の場合でも、以上のしおりやチラシ類はポストイングする。訪問活動から帰所後、データベースシステムに訪問の実績と聞き取り内容の入力作業を行う。

サポートセンターは、土・日曜日にも開設しており、平日における訪問で不在だった世帯に対して、電話をかけて聞き取りを行う。

毎週水曜日は、サポートセンターミーティングとして、名取市被災者生活再建支援課職員、サポートセンター職員、みやぎ心のケアセンター、JOCA職員を一同に会し、注意すべき世帯について情報共有と今後の対応方針について検討を行う。心や健康の面において重度の問題が発生しているような人がいる世帯については、同市保健センターに情報提供し、訪問の引き継ぎを行う。また、再建済の世帯のうち、特段大きな問題もなく、訪問の継続の必要性があまり内容であれば、「訪問不要」として以降の訪問対象から除外することがある。なお、対象世帯からの「訪問不要」の自己申告もこれに該当する。

4. 訪問記録の分析

本章では、訪問・聞き取り活動の実績が蓄積されたデータベースを用いて簡易的な分析を行った結果について述べる。図1に、月ごとの被災者訪問の件数を活動開始から2014年5月までの経過を示す。単位は、訪問世帯数ではなく、訪問対象者人数(人)である。図1には、全訪問件数と、レコード中に聞き取り内容になんらかの記述(自然文)がある件数の両方を示している。前者は20,471件、後者は13,427であった(なんらかの記述を含む割合:65.6%)。名取市サポートセンター「どっとなとり」が設立し、運用が開始されたのに伴い、徐々に訪問件数が増加している(2012年12月頃)。月当たりの訪問件数は、2012年度で67.7件、2013年度で63.2件となっている。図2と図3に、それぞれ全国と宮城県内の訪問世帯の空間分布を示す。図2を見ると、北は北海道、南は九州・熊本県にまで及んでいるほか、関東圏、山形県、福島県、新潟県に多い。宮城県外の居住者に対しては直接訪問を行っているわけではなく、電話によって聞き取りを行っている。図3の宮城県内の訪問対象世帯の分布は、カーネル密度推定によって示している。名取市が最も高い密度を示しており、近隣の仙台市にも多い。気仙沼市、大崎市など、県内でも50km以上離れた場所にも訪問対象世帯が位置している。

5. 今後の課題

これまでの災害においては、プレファブ仮設住宅に対する見守り活動が実施されている。このような場合においては、プレファブ仮設住宅の域内や周辺にサポートセンター機能や支援員が常駐することで活動が行われてきた。その上で、名取市のように域内外に分散する民賃借上げ仮設住宅の被災者、住宅再建が済み新しい住居をかまえた被災者への見守り活動は、まさに手探りの状況の中で行われている。今後は、被災者見守り活動の効用や課題、および効果的な方法に関する検討を継続していく。

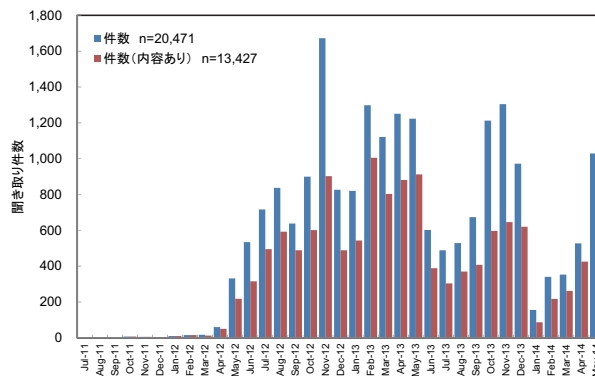


図1 月別の訪問件数(人数)



図2 訪問世帯の空間分布(全国)

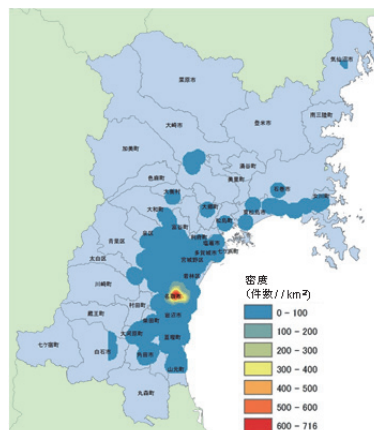


図3 訪問世帯の空間分布(宮城県内)

謝辞

名取市震災復興部生活再建支援課と名取市サポートセンター「どっとなとり」の皆様には、調査・資料収集等において多大なるご協力をいただいた。本研究は、(独)科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)「借り上げ仮設住宅被災者の生活再建支援方策の体系化」(研究代表者:立木茂雄)、住総研研究助成「借上げ仮設住宅施策を事例とした被災者の住宅再建に関する研究」(研究代表者:重川希志依)、東北大学災害科学国際研究所・平成25-26年度特定プロジェクト研究(連携研究,研究種目c)「東日本大震災の被災地における『被災者目安箱システム』の開発」(研究代表者:佐藤翔輔)によるものである。

参考文献

- 1) 田中聡, 重川希志依, 佐藤翔輔, 柄谷友香, 河本尋子: 名取市における借り上げ仮設住宅に居住する被災者の再建過程に関する一考察, 地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ in 大船渡, pp.17-18, 2013.9.